

市宮一 館物博 りよだ

もくじ

特別展 妙興寺展	2
常設展示リニューアル	4
北原白秋と「雀のお宿」	6
企画展「暮らしの中の民具」	7
平成26年度催し物のご案内	8

No.54 2014.10



「妙興寺靈宝弘通の略図」（『尾張名所図会』後編巻一）

妙興寺展

平成26年10月18日(土)～11月16日(日)

- 【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 【休館日】月曜日(但し、11月3日(月)は開館、翌4日(火)は休館)
- 【観覧料】一般500円(400円)、高校・大学生200円(160円)、小・中学生100円(80円)
 ※()内は20名以上の団体観覧料
 ※市内小・中学生は無料。
 ※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる
 公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。
 ※身体障害者等の手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。
- 【主催】一宮市博物館
- 【特別協力】妙興寺

妙興寺(大和町妙興寺)は長嶋山妙興報恩禪寺といひ、臨濟宗妙心寺派の末寺で、南浦紹明(大応国師、一一三五～一一三〇)の拜塔法嗣(没後の弟子)、滅宗宗興(大照禪師、一二一〇～八二)による開創です。宗興は、亡き紹明を師と仰ぎ勸請開山としました。貞和四年(一一四八)に創建し、十七年後の貞治四年(一二六五)に伽藍が完成され禪宗寺院特有の様式で建てられ寺観の整備が進められた禪刹です。境内地は愛知県指定史跡となっています。

妙興寺には、国の重要文化財、愛知県指定文化財、一宮市指定文化財をはじめ、未指定の絵画・彫刻・工芸・書蹟・古文書など、あらゆる分野におよぶ膨大な文化財が今に伝えられています。一宮市博物館では、これまでも特別展企画展などで妙興寺の文化財を公開してきました。

妙興寺では、平成二十六年に国の重要文化財として袈裟二領(旧愛知県指定文化財)が新たに指定されました。また平成二十六年四月には、平成二十三年度から三年かけて修復された市指定文化財「釈迦三尊坐像」が創建当初の姿になり、仏殿に安置されました。本展は、この記念すべき年にもあたり、妙興寺の特別協力のもと、妙興寺に伝えられた文化財を一堂に会し、妙興寺の六百五十年以上の奥深い歴史とその魅力の数々をご紹介します。

(石黒智教)



重要文化財 足利義教像
瑞谿周鳳 室町時代 15世紀



「靈宝弘通の略図」(『尾張名所図会』後編卷一・一宮市博物館)



一宮市指定文化財 陶製手水鉢
江戸時代 18世紀



愛知県指定文化財 彫根来大香合
室町～安土桃山時代 15～16世紀



一宮市指定文化財 湖州鏡
中国・宋時代 10～13世紀



観音龍虎図 伝牧谿筆 室町～安土桃山時代 15～16世紀



小膳 (楼閣人物文様)



中膳 (葡萄栗鼠文様)



大膳 (抱牡丹文様)

一宮市指定文化財
朱漆沈金膳
伝豊臣秀吉寄進
安土桃山時代 17世紀

関連催事

●講演会

- ① 10月19日(日)特別講演「妙興寺の今昔」
稲垣宗久老大師(妙興寺住職)
- ② 11月9日(日)「妙興寺の仏像・肖像彫刻をめぐって」
山岸公基氏(奈良教育大学教授)
- ③ 11月16日(日)「妙興寺の絵画について」
伊藤大輔氏(名古屋大学大学院教授)
【時間】午後1時30分から午後3時(開場午後1時)
【場所】①妙興寺本堂、②③妙興寺公民館
【定員】各回100名(当日正午より博物館受付にて整理券配付)
【聴講料】無料(ただし、本展覧会の観覧券等が必要)

●体験講座

- ① 10月26日(日)「妙興寺で禅体験!」
- ② 11月2日(日)「妙興寺の森で遊ぼう!」
【講師】②近藤修氏(一宮市文化財保護審議会委員)
【時間】午後1時30分から午後4時
【受付】①事前申込制、①当日博物館受付にて
【場所】①、②とも一宮市博物館、妙興寺
【定員】①10組(保護者1名と小・中学生1～2名、事前申込)、②なし
【参加費】無料(ただし、本展覧会の観覧券等が必要)

【①の申込方法】

往復ハガキにて以下を記入の上お申し込みください。
 (1)郵便番号・住所 (2)電話番号 (3)代表者名と参加者名 (4)年齢
申込先 〒491-0922 一宮市大和町妙興寺2390番地
 一宮市博物館「妙興寺で禅体験!!」係
申込締切 平成26年10月10日(金)必着

●学芸員による展示解説

- ①10月25日(土)、②10月31日(金)、③11月3日(月・祝)、
④11月7日(金)、⑤11月15日(土)
【時間】各回午後1時30分から30分程度
【定員】なし 【申込】不要
【聴講料】無料(ただし本展覧会の観覧券等が必要)



愛知県指定文化財 豊臣秀吉像
南化玄興賛 伝狩野山楽筆 安土桃山時代 17世紀

常設展示リニューアル

一宮市博物館は、一宮市の歴史と文化を伝えていくために昭和六十二年十一月に開館し、二十七年を迎えようとしています。新たに発見された資料やこれまでに蓄積された研究成果を踏まえ、十月十八日(土)より常設展示をリニューアルします。新常設展示では、太古から現代までの一宮市の歩みを概観できる歴史絵巻や、「自然と暮らす」、「人と暮らし」、「祈りと文化」の3つのテーマ展示で歴史を学ぶことができますようになります。また、見るだけでなく触れることにより学ぶことができる「たいけんの森」が設置されます。

『駅からのアクセスが
わかりやすくなります』



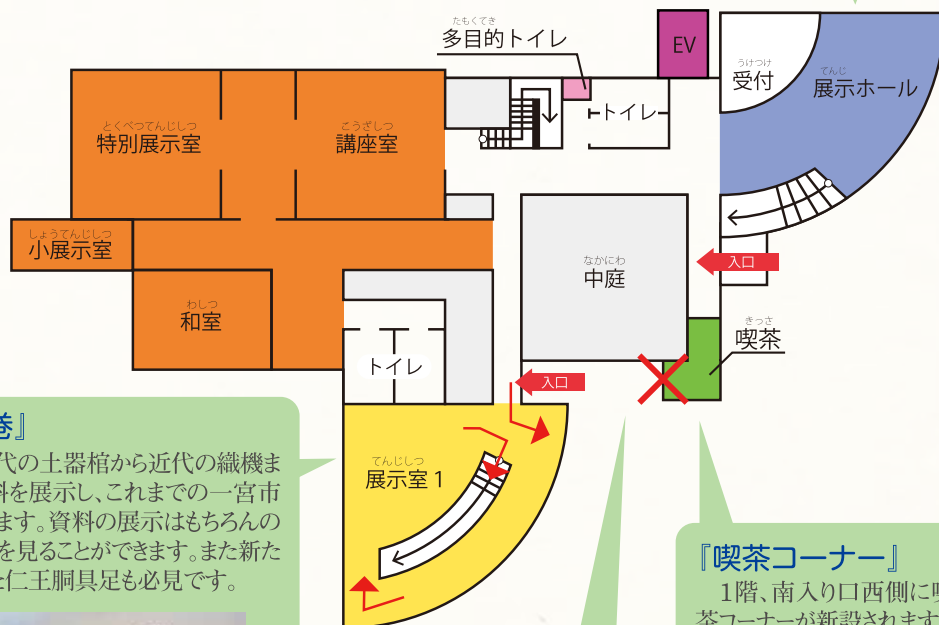
名鉄名古屋本線「妙興寺」駅から、博物館までの道のりがわかりやすくカラー舗装されました。

1 かい 階



『展示ホール』

扇形の吹き抜けのホールには、来館者と作る一宮の見どころを紹介する新コーナーが登場します。あなたのオススメの見どころを紹介してみませんか。



『いちのみや歴史絵巻』

このコーナーでは、縄文時代の土器棺から近代の織機まで、太古から現代までの資料を展示し、これまでの一宮市の歩みを概観することができます。資料の展示はもちろんのこと、映像でも一宮市の歩みを見ることができます。また新たに復元された仁王像を象った仁王胴具足も必見です。



『喫茶コーナー』

1階、南入り口西側に喫茶コーナーが新設されます。休憩にご利用ください。

『西側の入り口が変わります』

喫茶コーナーの新設に伴い、西側の出入口が、南側から北側になります。お間違えのないようよろしくお願いします。

2階

『祈りと文化』

太古の昔から人々は、水や大地といった自然あるいは八百万の神々に祈りをささげてきました。このコーナーでは、原始の時代から今日にいたるまでの人々の祈りの形の変化を見ていきます。



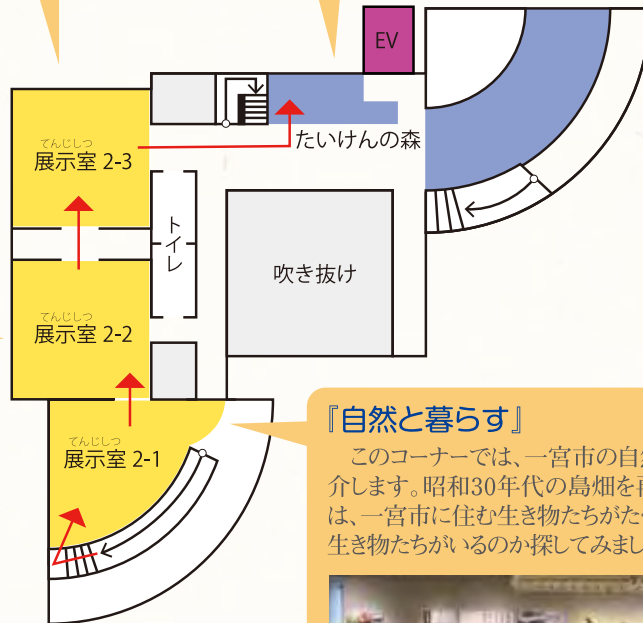
『たいけんの森』

2階、エレベーター前にはカラフルで明るい「たいけんの森」コーナーが設置されます。このスペースでは、一宮市パズルや考古資料などさまざまな資料を自由に触ることができます。また、ボランティアの方の協力により糸つむぎや織機で布を織る技術も体験でき、見るだけではわからない、触れることでわかる新たな発見を体験することができます。



『人と暮らし』

このコーナーでは、この地に住む人々がどのような暮らしを営んできたのかを紹介します。人の暮らしに欠かせない食の移り変わり、暮らしに必要な道具を作る鍛冶や竹細工の製作工程を学ぶことができます。



『自然と暮らし』

このコーナーでは、一宮市の自然環境について紹介します。昭和30年代の島畑を再現したジオラマには、一宮市に住む生き物たちがたくさんいます。どんな生き物たちがいるのか探してみましょう。



凡例

- 有料ゾーン
- 無料ゾーン
- 企画展ゾーン
- 常設展順路

『照明がLEDに』

博物館の照明がLEDになりました。LEDは、白熱電球や蛍光灯とは異なり紫外線を含まないため、資料を劣化から防ぎ、より安全に長期間展示できるようになりました。

『エレベーターが設置されます』

受付横にエレベーターが設置され、2階への移動が便利になります。

『無料ゾーンができます』

新たに無料で観覧できるコーナーが設置されます。無料ゾーンは展示ホール、たいけんの森のコーナーになります。有料ゾーンと無料ゾーンの範囲については平面図をご覧ください。

北原白秋と 「雀のお宿」

同時開催 川合玉堂展

「あ、あの右袂が笠松の四季の里です。左が雀のお宿。」

素峰子は舳に立って、白に赤の黒の彩雲閣のフラフを高く高く振りなびかす。(中略)

「君のどこの林間学校の子供たちだね。幾人ぐぐらみ来る。」

「昨年は百六十名ほど来ましたがこの夏は六十名くらいでせうか。」

——北原白秋「木曾川」より抜粋

「この道」待ちぼうけ」などの童謡で知られる詩人北原白秋は、昭和二年（一九二七）八月、五歳の長男とともに犬山・恵那峡・養老などを周遊しました。その際の紀行文の中で、白秋と親しげに言葉を交わす「素峰子」こと、野田素峰明治二十五年（一八九二）に現在の一宮市大和町宮地花池に生まれ、早稲田大学文学科に進みましたが、病弱のため中退し、地元に戻って、昭和十二年（一九四七）に亡くなるまで、病児教育に一生を捧げ人物です。



「雀のお宿」での林間学校で良寛さまのおはなしを聞く子供たち（昭和3年頃）（個人蔵）

「雀のお宿」

「雀のお宿」とは、素峰が大正十年（一九二二）、現在の北方町宝江の木曾川畔に設立した病児教育施設の名称です。先年に愛妻を病で失った素峰は、大和町・妙興寺の松岡寛慶老師のもとで信仰生活を送った後、子供らを愛した良寛に私淑し、自らのように身体の弱い子供たちの教育の場の創設を目指すようになります。そんな素峰を応援したのが、同窓の白秋でした。「雀のお宿」という名称も、白秋の命名に拠ります。

「雀のお宿」は、その後、昭和二年（一九二七）に木曾川町里小牧へ、昭和十一年（一九三六）に現在の岐阜県恵那市大井町に移転します。その他にも、奥町や岐阜県加納町笠松町に「雀のお宿保育園」を開設し、詩人の野口雨情（代表作「赤い靴」など）が園長を務めたりなどしました。

支援者たち

白秋や雨情以外にも、中央の文化人たちが、一宮市の財界人たちが支援者として名を連ねていました。当時の芳名録を紐解いていくと、歌人の柳原白蓮が、雀のお宿の賛助会員として金五百円を寄付し、本名の「輝子」と署名しているのを見つけることができます。

恵那に移転後は、名古屋帝国大学衛生学研究室の長松英一教授が園長を務めるようになり、鯉沼卯吾教授らによつて、高原気候における療養の効果について、実証研究が行われました。

しかし、太平洋戦争による食糧難などで、昭和十七年（一九四二）ついに「雀のお宿」は閉鎖されることになりました。現在、恵那の跡地は、「雀のお宿キリスト教会館」となり、キリスト教の研修施設として「雀のお宿」の名を残しています。（成河 端子）

主な参考文献

東海良興 「雀のお宿」の事跡 「雀のお宿」
（恵那）の支援者たち（二〇〇三）

※本稿の執筆にあたり、ご遺族の野田素介氏、「雀のお宿研究会」の佐塚篤氏、一場正好氏、日比野友治氏に多大なるご協力を賜りました。記して謝意を表します。

平成 26 年

10月15日 水 — 11月12日 水

玉堂記念木曾川図書館にて開催

- 開館時間 午前10時～午後6時
- 休館日 10月20日(月)・27日(月)・11月4日(火)・10日(月)
- 学芸員による展示解説 各回午後2時より
10月15日(水)・22日(水)・29日(水)・11月5日(水)・12日(水)

企画展

暮らしの中の 中の民具

ちえとくふう

この展覧会は、歴史を学び始める小学校三年生のために、民具を通して当時の生活を紹介するもので、平成三年度から二十四回目を迎えます。今年度は「ちえとくふう」をテーマに、道具と人々の暮らしのありようを捉えていきたいと思えます。

暮らしの中の衣服

暮らしの基本は「衣食住」にあるといわれています。その中で、「衣」の移り変わりを見ていくとき、明治に入り、軍服や官吏の制服に洋服が採用されたことを皮切りに、それまでの着物(和服)から洋服へと転換していった点が最も大きな変化のひとつといえます。現在では当たり前のようになつた洋服ですが、それまでの暮らしの中に洋服を取り入れていく過程には、さまざまな創意工夫を見ることがができます。

外套いろいろ―和洋折衷

写真①～②は、明治から昭和にかけて用いられた、男性用の外套です。

①の二重回しは、スコットランドに起源を持つインバネスコートが日本に取り入れられたものです。通常の洋装用の

コートは袖が細いため、和服の大きな袖を収めることができません。しかし、インバネスは袖の部分が大きなケープになっているため、和服の上にも羽織ることができ、洋装になじみのなかつた人々の間にも大流行しました。和服にコートという特殊な装いも、現在では確固とした地位を築いています。

②の角袖コートは、和服用に袖を大きく仕立てたものです。

戦時下の装い

戦時中の衣服として代表的な国民服ですが、これが制定されたのは、戦時下の物資欠乏により、礼服・軍服・普段着を二着で済ませられるようにというの理由のひとつでした。女性用にも、少量の布で縫製できる、婦人標準服を制定しようという動きもありましたが、強制的なものではなかつたこともあり、あまり普及しませんでした。一方、戦争末期になると女性用の「もんぺ」が登場します。品位に欠けると眉

をひそめる向きもありましたが、圧倒的な実用性が勝り、その普及を押しとどめることはできませんでした。

戦争中という特殊な状況下で、利便性や動きやすさといった、最も求められる機能に合わせて工夫された衣服の例といえます。

衣服だけでなく、暮らしの中の道具には、その時々の人々の「ちえとくふう」がまつています。展覧会では、さまざまな資料から、そのようすをご紹介します。(成河端子)

主な参考文献

井上正人『洋服と日本人国民服というモード』
廣済堂出版(二〇〇一)



写真② 角袖コート(一宮市博物館蔵)



写真① 二重回し(一宮市博物館蔵)



写真④ もんぺ(一宮市博物館蔵)



写真③ 国民服(一宮市博物館蔵)

平成 27 年

1月10日[土] - 3月8日[日]

- 休館日 1月13日(火)・19日(月)・26日(月)、
2月2日(月)・9日(月)・12日(木)・16日(月)・23日(月)、
3月2日(月)
- 会期中、体験講座・民俗芸能公演などを開催

平成26年度催し物のご案内

※詳細は市広報・ホームページ、または博物館までお問い合わせ下さい。

- ▼ 3月8日(日) **公演** 民俗芸能公演
- ▼ 2月15日(日)・22日(日)、3月1日(日) **講座** 尾張平野を語る19
- ▼ 11月5日(水) **講座** 市民文化財めぐり
- ▼ 3月25日(水)～3月31日(火) **企画展** 一宮写真協会選抜写真展
- ▼ 3月14日(土)～3月22日(日) **企画展** 一宮美術作家協会展
- ▼ 1月10日(土)～3月8日(日) **企画展** 暮らしの中の民具
- ▼ 11月29日(土)～12月14日(日) **企画展** 2014一宮市現代作家美術秀選展
- ▼ 10月18日(土)～11月16日(日) **特別展** 妙興寺展

展覧会

市民文化財めぐり

今年で、50回を迎えます。市内にある文化財のうちいくつかを、市民文化財保護審議会委員の解説により観覧します。

日時 11月5日(水)
時間 午前8時30分～午後4時30分
コース 榎江神社↓県営西中野渡船場
 ↓妙興寺↓博物館
対象 象市内在住・在勤の方
参加費 1500円程度
 (入館料・昼食代を含む)
申し込み 10月19日(日)(消印有効)
 ※詳細は市広報10月号参照。

尾張平野を語る19

これまで18回にわたり、自然・考古・民俗・歴史・美術工芸などさまざまな分野の講師をお招きし、尾張平野の歴史と文化を紹介してきました。19回目の今回は、一宮市内に残された歴史的建造物の保存・活用などについて考えます。

場 所 一宮市博物館
聴講料 無料(ただし常設展観覧料は必要)
 ※詳細は市広報1月号参照。

民俗芸能公演

一宮市域に保存・伝承されている指定無形民俗文化財の公演を行います。

場 所 博物館講座室
定 員 100名
参加費 無料(ただし常設展観覧料は必要)
 ※詳細は市広報2月号参照。



民俗芸能公演(島文楽)



木曾川資料館主屋(木曾川町黒田)



妙興寺仏殿(大和町)

一宮市博物館だより

第54号

発行日/平成26年10月1日
 編集・発行/一宮市博物館
 印刷/三井堂株式会社

利用案内

【休館日】 毎週月曜日、休日の翌日
【開館時間】 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
【観覧料】 入館無料。ただし常設展観覧料(聴講料含む)は一般200円(160円)、高校・大学生100円(80円)、小・中学生50円(40円)
 ※特別展開催期間の場合は別途定める。
 ※()内は20人以上の団体料金
 ※一宮市内小・中学生は無料
 ※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料
 ※身体障害者等の手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料
 〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390番地
 TEL0586-46-3215 FAX0586-46-3216
 URL <http://www.icm-jp.com/>



【交通】名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分
 ニコニコふれあいバス「博物館西」下車徒歩5分